

機関紙コンクール 応募作品募集

◎応募資格

各級機関の機関紙
(昨年7月~本年8月迄の発行)

◎応募締切

2017年9月25日(月)

◎審査

地方本部教宣部

◎表彰

最優秀賞・優秀賞・佳作賞
(第73回定期地方大会で表彰予定)



=春闘・組織拡大などで発言の
小林良宏代議員(盛岡地本)=



「議長就任挨拶の阿部一久青森支部委員長」

6月30日に開催された青森県平和労組会議議長に就任する事に於いて、江良前議長の後任として議長に就任する事になりました。青森県が抱える問題は、「東通・大間の原発」「六ヶ所核燃サイクル施設」「中間貯蔵施設」「米軍基地」などが有り、県民だけに留まらず近隣道県の人々の生命や暮らしを奪かす施設の宝庫となつてゐています。

6月30日に開催された青森県平和労組会議第27回定期総会に於いて、江良前議長の後任として議長に就任する事になりました。青森県が抱える問題は、「東通・大間の原発」「六ヶ所核燃サイクル施設」「中間貯蔵施設」「米軍基地」などが有り、県民だけに留まらず近隣道県の人々の生命や暮らしを奪かす施設の宝庫となつてゐています。

青森県平和労組会議議長に就任 傘下労組の仲間と共に運動進める

青森支部執行委員長

一久

いることがあります。

県平和労組としてはこれまで以上に、福島第一原発事故の反省を踏まえたうえで教訓を活かす努力や、北朝鮮の核ミサイル問題を平和的解決に導き、私たちが安心して暮らせるような環境づくりのため、県や国に対してエネルギー政策と外交政策の転換を強く求めて行かなければならぬと思っています。

私自身これまで平和労組の組織運営に直接携わったことが無く不安でいっぱいですが、諸先輩の指導を仰ぎながら頑張っています。私はこれまで平和労組の中では、東方本部で国労組合員が議長・事務局長として長年にわたり頑張っています。

方から退職後の報告と同時に懸念している女性部の私達に激励の言葉もいただきました。夕食時には、3人のOBの方から取り組んでいく中で、協力してくれているのがわかると嬉しい、地道に取り組んでいく中から拡大に繋げようとしています。その為にも国労組合員の皆さんには、これまで以上の協力を強くお願いします。

新委員長に菊池忠志氏(水戸地本)を選出

盛岡地方本部 及川 孝

春闘に向けた取り組み三島、女性の国労組合員の仲間を増やしていくためにも大変重要な情勢下での開催となりました。議長に東京地本の田中代議員、副議長に北陸地本の後藤代議員を選出し、坂口委員長が政治課題・労働条件改善の取り組み・組織強化・拡大について触れ、「議論と総団結をつくり出し諸課題の解決に向け闘おう」と挨拶しました。

本部からの提起を受け、経度運動方針については小林良宏代議員と沢田光広代議員が宏代議員と沢田光広代議員が発言しました。小林代議員は、「2018年春闘は本部としてもエリアごとの春闘の闘いを構築する体制への検討が必要だ。9月に地本主催の組織拡大対策会議を開催し、もう一人の青年の組織化に向け個人的なつながりから組織として支える体制を具現化する会議したい」と本部への要望と地方の取り組みについて考えを示しました。

全体では経過で5人、方針で25人の代議員が発言し多くの代議員からは、「JR30年についての検証と地方方針」、「線廃止問題について、政治の役員改選では定数通りの立候補があり、新委員長に菊池忠志氏(水戸地本)を選出するなど新執行部の体制も確立されました。

役員改選では定数通りの立候補があり、新委員長に菊池忠志氏(水戸地本)を選出するなど新執行部の体制も確立されました。

本大会では、組織の在り方の議論を早急に進めるための積極的な発言も多くあり、国労の将来を真剣に考え、若い組合員に労働運動を継承することが大事だと感じました。

創意と團結で困難を乗り切り、労働者たちの先頭に立ち闘う

創意と團結で困難を乗り切り、労働者たちの先頭に立つて闘う決意を全体で確認し合う

大会となりました。

本大会では、組織の在り方の議論を早急に進めるための積極的な発言も多くあり、国労の将来を真剣に考え、若い組合員に労働運動を継承することが大事だと感じました。

創意と團結で困難を乗り切り、労働者たちの先頭に立つて闘う決意を全体で確認し合う

大会となりました。

本大会では、組織の在り方の議論を早急に進めるための積極的な発言も多くあり、国労の将来を真剣